

## 土壌中カリ 40mg で水稻無カリ栽培ができる

県内水田土壌中の交換性カリ含量は年々増大している。前作跡地の交換性カリ含量が 40mg/100g 以上と診断された水田では、水稻無カリ栽培が可能である。

S54～57 に実施した調査では、交換性カリ含量が 40mg/100g 以上の圃場は、全体の 10%以下であった。しかし、H6～9 の調査では、全体の 20%以上となった。全体的に、県内の水田土壌中にカリが蓄積している傾向が認められる。

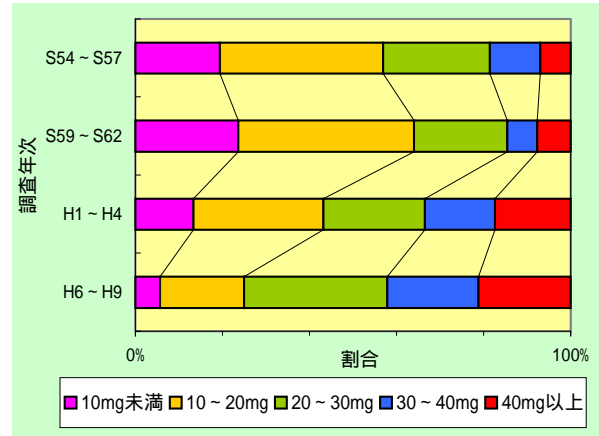
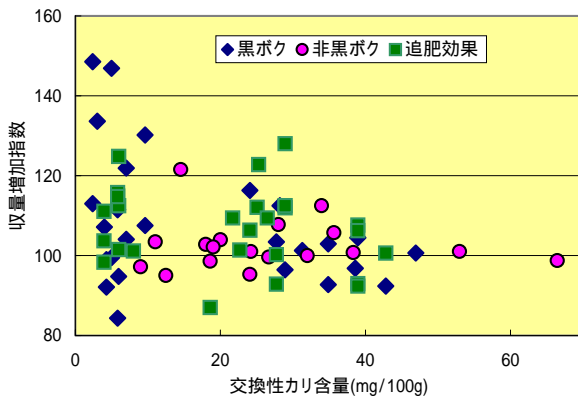


図1 県内水田土壌の交換性カリ含量の推移

土壌中の交換性カリ含量が増加するにつれ、カリ肥料施用による増収効果は小さくなる。交換性カリ含量が乾土 100g あたり 40mg 以上と診断された水田では、カリ無施用でも生育・収量および玄米品質は劣らず、無カリ栽培が可能である。



収量増加指数：カリ無施用区の収量を 100 としてカリ施用区の収量を指数化したもの（追肥効果については、カリ無追肥区の収量を 100 としてカリ追肥区の収量を指数化したもの）。

黒ボク n=31, 非黒ボク n=13, 追肥効果 n=27

図2 交換性カリ含量別のカリ施用効果

表1 無カリ区とカリ施用区の成熟期形質と収量・収量構成要素（平成13年度）

試験地点と カリ施用量 (基肥+追肥)	交換性 カリ含量 (mg/100g)	成熟期形質			全重 (kg/a)	わら 重 (kg/a)	精玄 米重 (kg/a)	m <sup>2</sup> 初数 (千粒)	登熟 歩合 (%)	玄米 千粒重 (g)	等級
		稈長 (cm)	穂長 (cm)	m <sup>2</sup> 穂数 (本)							
北上 (0+0)	26.5	80.0	17.9	458	144	73.6	47.0	27.1	83.3	23.0	1等
北上 (10+2)	26.5	80.2	18.0	445	154	77.2	50.6	26.8	85.0	22.2	1等
太田 (0+0)	42.8	76.7	17.4	520	167	71.6	63.0	33.4	84.8	22.7	1等
太田 (10+2)	42.8	77.8	17.6	493	165	72.9	58.6	34.8	76.4	22.3	1等

注) 土壌タイプはいずれも黒ボク土。